

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

播磨町 むかし昔

その三 「鴨波」から「住吉」へ①

「鴨波里」は、粟を多く植えた地であることから名づけられた地名「粟々」のめでたい文字と考えていたのですが、高砂市史は「阿閑」のよき字と捉えています。これが正しいのであれば、ま

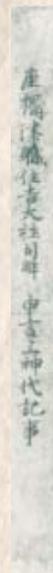
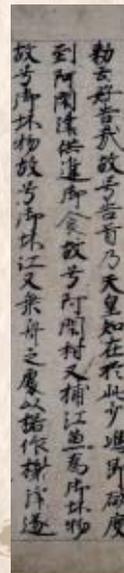
ず阿閑の説明をしておかなければなりません。播磨町の昔の名前、難解な読みが、この由来が「播磨国風土記」に書かれた阿閑津・阿閑村にあることを知っておられる方は意外と少ないようです。

『播磨国風土記』は、これを景行天皇が印南別嬢を妻とするために賀古・印南郡の各所を訪ねた物語と関連づけられたのです。天皇は印南別嬢が南毗都麻嶋に逃げ渡ったことをお知りになり、この小島に渡ろうと思いい「阿閑津に至り御食を供進す。故に阿閑村といふ」。

すなわち、神にお食事を差し上げた所なので「阿閑村」と名づけたというのです。また、阿閑は阿部とも発音し、天皇の「軍事と食膳」を担当した古代豪族「阿部氏」に関係する地名とも言われています。さらに、「阿閑津」の地名は、住吉大社の神主「津守氏」が書いた『住吉大社神代記』にも「阿閑津浜」として登場します。同書は田中卓の『住吉大社神代記の研究』により、古い伝承を書いた史料として国の重要文化財に指定されました。なお、巻末には天平3

(731)年と記しますが、武田祐吉・坂本太郎らの研究者は9世紀末以降に住吉神の神威上昇と津守氏の地位保全を図るため、神社の縁起と、所領・神宝などの種類や来歴を書いた文書と考えます。

【問合せ】播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂
☎079(435)5000



た名神大社で、「表筒男命・中筒男命・底筒男命」のいわゆる住吉三神を祭神とします。この三神は神功皇后の新羅出兵に功績があり、航海の安全を祈る神として重んぜられ、瀬戸内海航路を中心に、各地に祀られました。その他、子神に阿閑神と魚次神などがいます。賀胡郡の阿閑津浜の縁起には、神功皇后が鹿兒浜付近で大神に魚の饗を捧げ、津守宿禰の遠祖がこれに奉仕したため、「阿閑浜」と名づけたと記します。

播磨国風土記（天理大学附属天理図書館蔵 国宝）
住吉大社神代記（住吉大社蔵 重要文化財）
田中卓『住吉大社神代記の研究』から

町の人口 5月1日現在 住民基本台帳人口()は前月比
34,717人(-31人) 男...17,007人(-26人) 世帯数...14,319世帯(+6世帯)
女...17,710人(-5人)

